

神奈川県立生命の星・地球博物館

友の会通信

Vol.16, No.2, 通巻77号 2012.9.15 発行

目次

身近な自然シリーズ……1	博物館NOW ……………9
活動報告……………2~7	情報クリップ……………9
わたしの選ぶ“この一冊”…8	行事案内……………9・10

博物館周辺の身近な自然シリーズ (その32)

資料専門員のお仕事

熊谷拓朗

皆様はじめまして。このたびご縁がありまして、本年4月1日より資料専門員として勤務しています。熊谷拓朗と申します。

この博物館に初めて訪れたのはもう10年以上前になります。それ以来神奈川県植物誌調査会や、友の会等、一利用者としてお世話になってきましたが、今回改めて館の職員という立場から博物館に携わらせていただくことになりました。快く受け入れてくださった館の皆様に感謝するとともに、館を支える一職員という立場に立ち、改めて身の引き締まる思いです。

仕事は、資料専門員という名の通り館の収蔵資料、具体的には植物の標本を取り扱う業務が主体です。特に最近取り組んでいる仕事は、植物標本の電子画像化です。近年、PCの性能向上やインターネットの発達に伴い、収蔵資料を電子画像としてWebサイト上で公開することで、来館せずとも手軽に資料を閲覧できる仕組みを整えた博物館も出てきています。こうした情勢を踏まえ、当館の植物グループでも、植物標本の電子画像化を始めています。現在は、どのような保存形式がよいのか、どうすると効率良く画像を取得できるのか、といった手法の模索を行っている段階です。植物標本を一点ずつ撮影してみたり、スキャニングしたりといった地道な作業の繰り返しではありますが、100年前に作られた標本に触れたり、逆に自分の仕事が数十年以上先の人々にも残されていく、そうした長い時間スケールのもとでの業務は、博物館という職場ならではの面白さではないかと感じています。

基本的に収蔵庫の隅でひっそりと作業をしているので、あまり表に出ることはないかと思いますが、資料の画像化等の業務を通じ、微力ながら館の発展に貢献できるよう、頑張っていきたいと思っています。

博物館で働くことになって

佐野真吾

はじめまして。今年度から資料専門員として働かせていただいている佐野真吾と申します。担当分野は昆虫で、個人的にはゲンゴロウやタガメ、トンボなどの水辺にいる昆虫が好きです。そもそも水辺の昆虫に興味を持ったのは、小学校3年生の時に当博物館を訪れたことがきっかけでした。2階にある“失われていく生き物”のコーナーでゲンゴロウやタガメが神奈川県の絶滅種であることを知り、「ゲンゴロウやタガメはそんなに絶滅に瀕した昆虫なのか!？」と大きなインパクトを受けました。隣に展示されている恐ろしい顔をしたニホンオオカミの模型に怯えながらも、少年はこの日を境にゲンゴロウやタガメの魅力に引き込まれていったのでした。それ以来、当博物館には神奈川昆虫談話会や昨年おこなわれたゲンゴロウの特別展などで携わらせていただきましたが、今年度からは職員として働かせていただけることになったので、少しでも貢献できるように頑張っていきたいと思っています。

現在、館内での仕事は、特別展に関わる資料の取り扱いについて多く担当させていただいています。今年のトンボ展では世界各国の数千点に及ぶ標本が出展されたため、それらの標本データやラベルの作成が主な仕事となっていました。担当の荏部学芸員には「2年連続で特別展に関われるなんて素晴らしいことだよ!」と言われましたが、確かに毎日充実とやりがいを感じながら働かせていただいています。



今後は、標本室に保管されているゲンゴロウ類のコレクションの電子画像化に取り組んでいく予定です。

◆ 活 ◆ 動 ◆ 報 ◆ 告 ◆

樹木観察基礎講座 第4回

『茎の伸長と肥大(樹形をどうどらえるか)』

2012年4月22日(日)／博物館実習実験室／21名／講師：八田洋章 国立科学博物館名誉研究員



実際に葉を観察しての復習です サンプルの特徴をひとつひとつ確認

連続講座の最終となったこの日は一部予定していた屋外での樹形観察はあいにくの雨で中止になったものの、持ち寄ったたくさんの樹木サンプルでこれまで学んだことを実際に確認、復習することで、一層の理解を深めることができました。この4回にわたる樹木観察基礎講座は、「樹木観察を始める良い時期にその基礎をまとめて学ぶ機会を」という八田先生のご厚意のもと開催することができました。多くの参加者を得て無事終えることができたと感謝しています。以下、参加された方の感想です。

- ・「木の見かた」を知ることで、今まで観察してきた樹木も違って見えるようになりました。
- ・先生の著書『木の見かた、楽しみかた』を読んだだけでは難しく、理解できないこともあったのですが、スライドとていねいな説明で理解でき再認識したことも沢山ありました。
- ・今後はもっと木をおいかけてみたいと思います。
- ・よくばらず一本の木から始めようと思いました。新しい発見がいっぱい出てくると楽しみです。
- ・講座参加の方々と話し合う中で教えて頂いたことも多く、また先生に沢山質問できて疑問が少し解消できました。
- ・屋外で実際に見ながらでしたらもっと理解が進んだものと少し残念です。

感想からも多くの方が樹木の継続観察に関心を寄せておられることが分かり、講座の企画者として有り難く思っています。ご意見を今後の講座に生かしていきたいと思います。(友の会 水口、深山)

地 話 懇 話 会

『小田原城跡御用米曲輪の地層観察』

2012年4月25日(水)／博物館講義室、および小田原城跡周辺／20名／講師：笠間友博学芸員、小田原市

文化部文化財課 佐々木健策氏

今回は小田原城址公園の発掘現場で地層を観察できるということで、講座内容が変更になりました。発掘現場は御用米曲輪跡(旧野球場)の本丸側の法面で、崖の上方に天守閣が見える位置です。

発掘現場では、初めに文化財課の佐々木氏による史跡整備の現状について説明があり、その後笠間学芸員から発掘した本丸側法面の地層を実際に見ながら詳しく解説して頂きました。

発掘露頭中央部には天守閣の方向に伸びている立川ローム層などの関東ローム層が露出する御用米曲輪土台地形がありました。それは谷を埋めているローム層中のパミス(軽石)やブロックの混入分布状態から判断できるそうです。また、ローム層の一部がやや青色がかっている所があり、これは還元変色だとの説明がありました。

地層、地形観察から実に沢山の情報が得られることに驚きました。

今回の講座では主に堆積地形、地層の見方を教わりましたが、短時間ながら実に有意義なものでした。

(吉田和昭)



小田原城史跡整備状況を説明する佐々木健策氏



小田原城の基盤とみられる立川ローム層などの関東ローム層が露出する御用米曲輪土台

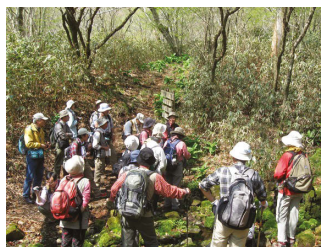
観 察 会

『駒ヶ岳に箱根火山と風衝植物を訪ねて』

2012年5月7日(月)／箱根駒ヶ岳／65名／講師 蛸子貞二(友の会) 田代道彌氏 本多まさ子氏



駒ヶ岳風衝地に行く



駒ヶ岳清水平

ゴールデンウィークも終わった7日、箱根は爽やかに晴れまさに観察会日和でした。《箱根中央火口丘の風衝岩角地とブナ帯の地形と春植物》という欲張りなサブタイトルに負けない内容の濃い観察会でした。

私たちのグループは田代道彌氏の案内で駒ヶ岳山頂から観察開始。まだ咲いていたマメザクラから話が始まりました。マメザクラはヤマザクラなど他のサクラに比べて花も葉もずっと小さいと花の説明に始まり、進化の段階が原始的な種であること、主な分布は富士川から丹沢あたりまでであるが長野県、千葉県にもみられることなどお聞きする。又良く似た種に萼と萼筒が長いキンキマメザクラがあり、京都を中心に日本海側に分布するがどちらも中国にその共通祖先があり、それが日本に入ってきたものであろうことなど伺う。日本に侵入してきてからマメザクラとキンキマメザクラに分化したものか、或いは侵入した時期が異なり寒い時期に入ったものが日本海に、暖かい時期に入ったものが太平洋側に分布するようになったのではないかなど、マメザクラひとつで箱根から中国へ、そしてマメザクラの祖先が日本にやってきた遙か昔へと空間も時間も大きく飛び、個人的には興味を持てなかったサクラが一気に興味の対象として浮かび上がってきました。

駒ヶ岳山頂のような風衝地では植物は小型化、多毛化し、葉も厚くなること、又、溶岩が酸性土壌であるため花の色が変化することなどシモツケ、シモツケソウ、ヒメイワカガミ等の例を引かれて説明を受けた。観察できた植物は他に白から紫まで花の色の変化が美しかったコキクザキイチリンソウ、トウゴクサバノオ、シコクスミレ、オトメスミレ、コイワザクラ等。箱根の魅力を堪能できた観察会でした。

(小久保恭子)

樹木観察講座

『タブの花と同時枝ークスノキ科の樹種群ー』

2012年5月19日(日)／横浜市こども植物園／22名／
講師：八田洋章 国立科学博物館名誉研究員



枝の伸ばし方をじっくり見てみよう



クスノキの花

クスノキ科の植物は香料や防虫剤など有用なものが多いので、大変興味深く受講しました。クスノキ、タブノキなどは普段目にすることが多いですが、花は小さくて目立ちません。今回、実物とスライドでしっかりと、3数性のつくりであることを観察しました。また、クスノキ科は、原始的被子植物の仲間

に位置すること、花のつくりで属の分類をすることを学びました。クロモジ、タブノキの同時枝については、実物の枝を使い詳しく説明していただいたので、理解することができました。私の大好きなアボガドも、種子を一つ持つ果実をつけるクスノキ科の植物であることを知り、他国の果物がぐっと身近なものに感じられうれしくなりました。(塗々木恵子)

大人のための自然不思議発見講座

『きのこ土の中の虫と放射能』

2012年5月19日(土)／博物館3階実習実験室／16名／
講師：中森泰三 横浜国立大学環境情報研究院講師
折原貴道学芸員 勝山輝男学芸員



講師の中森先生は、環境生物・生態系に対する放射能の影響に関する研究をされています。また昨年3月の東日本大震災直後から福島県に土壤動物調査にも出かけられています。お話しは、「放射線」と「放射能」の違いから始まりました。放射線を避けるには①距離をおく ②遮蔽する ③作業時間を短くすることですが、放射能汚染現場ではこれらの対処が難しくなります。今までは人が守られていれば他の生物は守られているだろうという認識のもとに放射線防護が進められてきました。人間以外の生物の放射能影響についてはあまり研究されていません。また、放射性物質の影響を受けない虫が放射性物質を運ぶ存在にはならないのだろうかという懸念もあります。

次に、土の中やきのこを通過した放射性物質はどうなるのかという実験をメチレンブルー水溶液（陽イオン性の色素）を①土壌だけ ②土壌＋1gの砂 ③土壌＋1gの落葉 ④土壌＋1gのきのこ菌糸に通した結果を観て考えました。結果は…写真をご覧ください。

さらに、その影響を受ける「土の中の小さな虫達」を顕微鏡観察しました。

最後に①放射性物質は落葉や土壌表層近く



「土壌の吸着実験結果」
左から①②③④

に残る。②土壌中にいるいろいろな動物に影響する。
③弱肉強食により生態系の中を循環する。とまとめられました。

実験はうまくいったところも、そうでなかったところも、和やかに参加者同士の会話がはずみました。
(矢野倫子)

よろずスタジオ

『葉っぱであそぼ！』 ～葉やはがきに葉っぱのスタンプをしよう～

2012年5月20日(日)／博物館1階講義室／69名／講師 よろずスタジオスタッフ



お父さん、お母さんも一緒にスタンプ 家族みんなで作ったしおり

今日はどんなことをするのか？と入ってきた子どもたち、そして、お母さん、お父さん方。最初は黒板に貼られたいろいろな形の葉っぱの絵や、机に並べられたたくさんの葉っぱを見ながら、形や大きさなどに興味を持ってくれたようです。今日はこの葉っぱをスタンプにして葉やはがき作りをするという説明を聞いて子どもたちはそれぞれスタンプにしたい葉っぱを選びました。初めは慎重に葉っぱを選んでいたので子どもたちでしたが、一度できると次はいろいろな葉っぱに挑戦していきました。大きな葉っぱを紙の真ん中に押す子、たくさんの葉っぱをきれいに並べて押す子、使う葉っぱも、押し方も、色選びも実に様々。出来上がった葉にリボンをつけてもらってうれしそうでした。中には父の日のプレゼントにしようとお手紙も書いて仕上げた子、はがきにスタンプしておじいちゃんに出すという子もいました。みな思い思いに仕上げ嬉しそうにお土産にしました。今回は子どもと大人がほぼ同じ人数でした。子どもたちだけでなく、保護者の方も一緒に楽しんでくださいました。葉っぱっていろいろあるんだなあ、どこにでもあるこんな葉っぱで楽しい遊びができるんだなあ…と、身近な葉っぱにちょっと関心を持ってくれると嬉しいな、と思いました。(佐々木あや子)

■子どもたちの感想■楽しかった。(保・年長、小2・女子)／葉っぱの細かいところが楽しかった。(小2・男子)／ヤマボウシの葉が玉ねぎみたいで面白かった。(小3・男子)／面白くて楽しかった。(小2・男子)

／子どもも簡単にできたのでよかった。(保護者)／家に帰ってやってみたい、無料なものよい。(保護者)

観 察 会

『金時山に箱根火山と 先駆植物シロヤシオを訪ねて』

2012年5月23日(水)／金時山／35名／講師：蛭子貞二(友の会) 田代道彌氏 本多まさ子氏

朝方までの大雨はどこへ行ったのでしょうか、すっかり青空になり金時山のシロヤシオ観察は最高の日になりました。金時神社に集合、歩き始める前に箱根火山の地質や



駒ヶ岳頂上駅

箱根火山解説(蛭子講師)

その形成史について、また、60万年以上前から箱根火山は何回も噴火を繰り返してきたが金時山はほとんど変わらなく現在に至っていて、箱根では金時山にだけしか見られない植物があり、特に北斜面には多いというお話がありました。

準備運動をしてさあ出発です。途中の大きな岩では「金時のてまり石」、「金時の宿り石」などと金太郎伝説も交えて、この大きな岩が箱根噴火による岩で角礫玄武岩だということやその岩肌にはヒメウツギやイワイボウシ、カタヒバなどが観察できました。休憩を兼ねながらその植物の特徴についての説明もありました。山頂への登山道では途中芦ノ湖などが一望できるところもあり、噴火でできた箱根山塊の様子や見られる断層についても丁寧に解説していただきましたが、あそこが断層??あのあたりは噴火してできた??

箱根の地質、形成についてほんの少しでもわかりたいと思い参加しましたが、初歩の初歩がわかっていない私には丁寧な講師の説明はもったいないようでした。

山頂に近づくに従ってシロヤシオが見られるようになってきました。シロヤシオの分布は岩手県から神奈川県、和歌山県、四国などの太平洋側に限られており、九州にはなく、同じような分布の仕方をするのがレンゲシロウマということでした。今年はシロヤシオの花は少なくさびしいということでしたが、登山道には白い花が落ちていて、花を拾い上げては頭上を見上げ樹を確かめながら歩きました。下山しながら箱根や丹沢周辺に見られるフジアカシロウマ、キントキシロヨメナ、カナウツギ、タテヤマギク、シバヤナギ、またサンシロウバラの分布の話な

ど聞きながら仙石へ戻ってきました。(佐々木あや子)

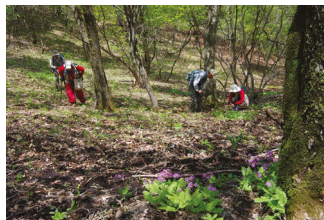
植物観察会

『信濃路自然歩道を歩く』

2012年5月29・30日(火・水)／信濃路自然歩道、離山／32名／講師：勝山輝男学芸員



－信濃路自然歩道－
下向に咲くオニヒョウタンボク



－離山－観察風景

絶好の日和に恵まれて、峰の茶屋から信濃路自然歩道の緩やかな下りで観察が始まった。林床で早速シロバナエンレイソウやユキザサがお出迎え。

今回の観察会の主役の一つオニヒョウタンボクがいきなり現れた。葉の陰に少し黄色を帯びた花が下向きに2つ並んで咲く姿は愛らしい。花を見る限り「オニ」は似つかわしくない。2つの花の子房が合着しているので果実が瓢箪形になるとのこと。

腺毛いっぱいミヤマウグイスカグラ、ツバメオモト、オオカメノキ、ルイヨウショウマ、チョウセンゴミシ、ミヤマスマレ、タチカメバソウなど、普段の活動ではほとんど見かけない植物がいっぱいだ。

終点の白糸の滝直前でわか雨が…。立ち寄った軽井沢町立植物園では、花が上向きに咲くハナヒョウタンボクの蕾を見ることができた。夕食後には軽井沢の植物についての講義に聞き入った。

2日目は離山だ。別荘地入口から上りはじめる。ルリソウが爽やかで美しい。わいわいがやがやとサクラ類やテンナンショウ類の話に花が咲く。

サクラソウが出た。この観察会のもう一つの主役だ。サクラに似たピンクの花が実に美しい。

山頂で昼食後、先生を中心に何やら人だかりが…。初めて見るアオチドリだ。カルイザワツリスゲ、オオコガネネコノメソウ、スワスマレなどを教わりながら市村記念館に下山した。盛り沢山でにぎやかな観察会はあっという間に終わってしまった。果実の実ったところにまた行こうかな！ (女川 修)

よろずスタジオ

『いろいろな菌類』

2012年6月17日(日)／博物館1階講義室／206名／担当 よろずスタジオスタッフ8名

菌類を紹介する“よろずスタジオ”も3回目(3

年目)、今回はいろいろな菌類を見てもらった。

「菌類」という言葉自体まだ馴染みのないのが一般的だが、実は身の回りにたくさん居ることを知ってもらうのが目的である。

来場者には、生き物の一部である菌類の生き方と姿はいろいろであることを簡単に説明し、いろいろな菌類看板実体顕微鏡と生物顕微鏡で菌類の姿をみてもらった。

材料は、実体顕微鏡下に、①青カビ、②目に見えないほど小さいおわん型キノコ、③市販のシメジのひだ、④病気の植物の4種。

生物顕微鏡下に、①アオカビのほうき型の孢子形成構造、②おわん型キノコの孢子形成構造、③エリマキツチグリの孢子、④植物病原菌の孢子。

加えて、孢子紋の作り方と10種の展示をし、毎回お馴染みの「きのこのスタンプコーナー」も設えた。(赤堀千里)

<参加者の感想>目に見えないものがよく見えたし、初めて知ったことが多く、面白かった。(小3男)／普段なかなか見る事の出来ないものを、見える形で示してもらえて有りがたい。(母)／楽しかった。カビとかの孢子が面白かった。(小1男)／目で見るときれいとは思わなかったが、顕微鏡の中だときれいだった。(小3男)



会場のにぎわい



おわん型のキノコの表面で作られる孢子と孢子の入る袋

『地話懇話会』

2012年6月27日(水)／博物館講義室／18名／講師：萬年一剛 温地研研究員

温泉地学研究所の萬年さんが研究されている「移流拡散モデル」は、火山噴火による堆積物から、当時の噴煙の規模を計算等により推定するもので、この研究のためアメリカへ一年間留学された、ということ。

向こうに滞在されて、日本とアメリカの違いなど



萬年研究員による懇話会風景

の話が尽きません。特に、アメリカの国立公園は国の管理が良く行き届き、自然が大切に残されている素晴らしい所と絶賛。

火山の好きな萬年さんの終始ユーモアを交えた楽しいお話でした。(吉川節子)

第101回 サロン・ド・小田原

『きのこの形に秘められた進化の歴史』

2012年6月30日(土)／地球博物館講義室、レストランフォーレ／講演55名 交流会28名／話題提供者 折原貴道学芸員

今回のお話は、菌類の分類に関するものでした。もう少し平たく言うと「きのこの種類と進化」のお話といったところでしょうか。

まず、初っぱな、驚かされたのは、「菌類は動物の親類です。」と聞かされたことです。胞子で増えるきのこが、何で動物の仲間なのか？

交流会でのスライド解説の様子
うも、遺伝子レベルでDNAを調べると菌類は「オピストコンタ」という、動物を含むグループの中に存在するらしいと言うことがおぼろげに分かりました。提示されたDNAデータセットの例も、私には原色のきれいな模様には見えませんでした。きのこの分類が、現状の体系にまとめられるようになったのは、2007、2008年ごろからのことのように、まだまだ研究の余地を十分に残した分野と言えそうです。ただし、この学問の入り口に立つまでは、並大抵な努力では追いつかないと感じさせられました。私の知っている言葉と言え、子嚢菌門、担子菌門くらいで、具体的に対象物がどちらに属するのかさえ、よく分かりません。

きのこの形も、ハラタケ型、コウヤクダケ型、腹菌型、棍棒型、サルノコシカケ型、サンゴ型、チャワンタケ型、などがあるそうで、もう、頭の中がこんがらがりそうでした。さらに、話を難しくした一言は、「きのこの形は必ずしも類縁関係を反映したものではない！」というものでした。きのこをつくる菌類では、実際には類縁関係のないもの同士が似た形に進化する「収斂(しゅうれん)進化」が頻繁に起こっているそうです。私の頭に残ったのは、きのこは乾燥から身を守るために、普通のきのこ型→



セコチウム型→腹菌型・地下生菌(シクエストレート菌)へと進化したということでした。この地下生菌(シクエストレート菌)の中に、第2部の話題の主となった「トリュフ」がありました。(飯島俊幸)

植物観察会

『海岸植物を訪ねて』伊豆須崎

2012年7月3日(火)／伊豆須崎／41名／講師：勝山輝男学芸員

梅雨最中ではありましたが、この日は、午前中は、日が差し少し暑いくらい。バスは小田原を7時34分に出発、伊豆半島の海岸道路を南下。車窓からの植物を見ながら勝山先生の説明がありました。アカメガシワ、ツルソバ、ハゼ、ノアサガオ(多年草)、ガクアジサイ(伊豆諸島系)、中でもハゼの葉が時季的にまだ早いにも関わらず所々紅葉しているのが目立っていました。今の時季の赤色は、嵐か病気で葉柄と茎の境に傷が出来、葉から茎への養分の移動が止まった状態になったためだそうです。海岸植物の樹木の中で目立つのは、ヤマモモやツバキ。白浜付近のビャクシンの群生林は天然記念物に指定されている、海岸植物は、葉が厚く大きくなる、ハマサオトメカズラはヘクソカズラの海岸型などのお話もありました。

10時15分、爪木崎自然公園に到着。ヒロハクサフジ、ササユリ(ニオイユリ)、ハマボス、イズアサツキ、スカシユリ、ハマナデシコは本日のメープラントです。

海岸の岩肌に咲き誇るスカシユリを眺めて、一句。

「古の 黒船見たか

スカシユリ」



下田の沖に現れた黒船を、断崖上に咲くスカシユリきっと見たに違いない。この海岸の植物たちは決して人が植えたものでもなく、誰が世話をしている訳でもない。自然に生えて、風土に馴染んで世代交代を繰り返している。人はこれを壊さないし、手も貸しません。他にも多くの植物に出会い感動しました。午後から雨になりましたが無事、午後4時15分小田原に着きました。(日置信夫)

地話懇話会

『デジタルな地形をアナログに観る』

2012年7月25日(土)／地球博物館講義室／14名／講師：新井田秀一学芸員

何かハプニングがありそうな「デジタルとアナロ



新井田学芸員による
懇話会風景



この地図をどこかに貼って
置きたいなあ…

グの関係」…我々が乗っている地球が観やすくなる手法について、その事例と一緒に新井田さんから紹介して頂きました。

5mメッシュの基盤地図情報などのデジタル標高モデルから、日本列島の大地や海がアナログ色彩に変換して描かれ、高さ・深さが美しくもあるが、それを超えて全くリアルでした。

その中でも圧巻は、難しかった講座の最後に見せて頂いた箱根山の高低地形を微分値で描いた濃淡地図です。箱根芦ノ湖や二子山の生い立ちが分かる溶岩地形の分布図の素晴らしさに“我が家の〇〇〇に貼っておきたい!!”などと、参加の皆さんからも唸り声が出ていました。地球は球と言えどもその表面は、局所的には全く球面をなしていないことは承知しているが、その表面地形のデジタルデータを我々でもインターネットから容易に入手できることを紹介頂き、帰宅して早速トライしてみました。

(久保田 豊)

[参考:地図ソフト情報]・カシミール3D:<http://www.kashmir3d.com/>

『清流の中、重鉍物をパンニングする』

2012年7月28日(土)／西丹沢 中川流域／20名／講師：蛭子貞二(友の会) 山下浩之学芸員

今回は、生命の星地球博物館友の会が主催する「パンニングをしよう!」の企画で西丹沢の「中川」という川に行きました。

最初に説明があり、パンニングのコツや、パンニングでは何が採れるかなどのお話がありました。「パンニングで金が採れるかも」、と講師の方が言ったので目が金キラになりました。

そして、さっそくパンニングが開始されました。最初は、金ばかり探しましたが、まったく採れず、テクニックがいることに気づいたのでザクロ石を探すことにしました。色々な講師の方に教えてもらったので、今度はザクザク採れました。その後も続けたら、磁鉄鉍も少し採れるようになりましたが、天候が心配されたので早めの終わりとなりました。帰る途中にも、ザクロ石が入っている石(りゅうもん

岩)を何個か拾いました。

今回の講座に参加して、とても楽しかったです。初めてでもできるので、ぜひたくさんの方に参加してほしいな、と思いました。(小5 山下和祥)



蛭子講師によるパンニング
ビギナーへの説明風景



これがザクロ石(ガーネット)
のに入った石なんだ…

子ども自然科学ひろば

『いろいろ体験』

2011年8月5日(日)／博物館3階実習実験室／27名／講師 小田部家邦氏(プランクトンウォッチャー)(友の会担当)

「プランクトン観察」では、生物顕微鏡を使いプレパラート上のプランクトンを観察。今回の試みで顕微鏡にCCDカメラを取り付けパソコン画面を見ながらプランクトンの名前、特長や動きを小田部先生に説明していただき、プランクトンの動きをみんなで観察することができました。



プランクトンを顕微鏡で観察
プランクトンの名前、特長や動きを小田部先生に説明していただき、プランクトンの動きをみんなで観察することができました。

「変形菌を顕微鏡で観察」では、変形菌てなんだろう? まず紙芝居で説明、そのあといろいろな変形菌の標本を顕微鏡で観察。初めて見る変形菌に子どもも「サカズキホコリの標本作製保護者もびっくりしたようです。今回は『さかずき』の形そっくりの「サカズキホコリ」のMy標本と変形菌絵合わせパズルを作りました。パズルはお父さんに好評だったようです。



サカズキホコリの標本作製
保護者もびっくりしたようです。今回は『さかずき』の形そっくりの「サカズキホコリ」のMy標本と変形菌絵合わせパズルを作りました。パズルはお父さんに好評だったようです。

「自然のものでスタンプ遊びをしよう」では、午前の部は貝やさかななどの消しゴム版画でオリジナルの色紙を作りました。小さなお子さんが真剣に取り組む姿や、出来栄えにびっくりしました。午後の部は貝殻、葉っぱやオクラなど自然のものをスタンプにして絵葉書をつくりました。大人には真似のできない個性豊かな作品が印象的でした。



貝殻に色をぬり絵葉書づくり

The image shows the front cover of a book titled '日本のクマ' (Japanese Bears). The cover is divided into two main photographic sections. The left section shows a large brown bear (Hokkaido Brown Bear) standing in a river, holding a fish in its mouth. The right section shows a black bear (Japanese Black Bear) climbing a tree. The title '日本のクマ' is written in large, bold, black Japanese characters at the top. Below it, the subtitle 'ヒグマとツキノワグマの生物学' (Biology of Brown Bears and Japanese Black Bears) is written in smaller black Japanese characters. Below the subtitle, the authors' names '編一 坪田敏男・山崎晃司' (Edited by Tetsuo Tsubota and Akira Yamashita) are written. At the bottom, the English title 'Bears in Japan' is written in a large, bold, black font, followed by the English subtitle 'Biology of Hokkaido Brown Bears and Japanese Black Bears' in a smaller black font. The publisher's name '東京大学出版会' (University of Tokyo Press) is at the very bottom.

学芸員 小坂井千夏

そんな「クマ」は、知らない人はいないポピュ

「日本のクマ」について詳しく知りたい！と言う方には、もちろんおすすめの1冊ですが、クマに限らず大型野生動物の研究はどのようなことをしているのかを知りたい方にも、お勧めします。本書を通して、少しでも多くの方がクマや野生動物の研究の世界を覗きに來て下さることをお待ちしております。

博物館 NOW

副館長 吉田 弘

最近の新聞報道によれば、世界の映画監督が投票で決める最も優れた映画に、小津安二郎監督の「東京物語」(1953年)が選ばれたそうです。

「東京物語」は笠智衆、原節子らが出演し、広島から子ども達に会うため上京するが、つれなくされる老夫婦の姿を通して家族の現実を描いています。

そして映画の重要なシーンでは東京国立博物館の前庭が使われていたと記憶しています。

このような世界的に評価される日本映画ですが、私の夢は「神奈川物語」が撮影されるとしたら、映画の重要なシーンで生命の星・地球博物館の前庭が使われるということです。

既に新聞報道等でご覧いただいたと存じますが、去る8月3日午後、博物館は500万人目のお客様をお迎えすることができました。これも開館以来17年間にわたる「友の会」の皆さんのご支援の賜物と改めて深く感謝申し上げる次第です。

そして、あと3年すれば博物館は開館20周年を迎えます。

博物館が開館した平成7年3月の頃は、県財政も今とは比較にならないくらいに力を持っていました。

開館当時には想定できなかった電力事情などにも見舞われ、夏の暑い時期にもかかわらず、節電の協力もいただいております。

黒岩知事も、「金がなければ知恵を出そう」とおっしゃっています。

私が県に奉職して35年が経ちました。最初の職場は社会教育課で、ちょうど「生涯教育」とか「生涯学習」とかが言われ出した頃でした。

小津監督の別の映画(「晩春」)では笠智衆演じる父親が原節子演じる娘にこんなことを言います。「お父さんはもう五十六だ。お父さんの人生はもう終りに近いんだよ。だけどお前たちはこれからだ。これからようやく新しい人生が始まるんだよ。」

私もその「五十六」もとうに過ぎ、58歳になりました。でも「人生はこれから」と念じつつ「博物館を楽しく」そして「600万人」「700万人」とお客様を迎え続けていかれるように微力を尽くす所存です。

＜情報クリップ＞

- 会員数 463 名 8月9日現在
(正会員 461 名、賛助会員 2 名)



当博物館では、8月3日に入館者数500万人を達成しました。

500万人目の入館者は、小田原市在住の小学4年生の男児でした。

博物館は、1995年3月20日に開館、翌日3月21日に一般公開を開始しました。開館から17年4ヶ月15日、実開館日数5,183日目に、500万人目のご入館者を迎えたことになります。

行事案内

◆ 子ども自然科学ひろば「よろずスタジオ」

場 所：博物館1階講義室(東側)

対 象：子ども(当日の来館者)／オープン

申込み：不要、無料

「トンボの一生」

トンボの一生をのぞいてみましょう。何が出てくるかな? お楽しみ!

日 時：10月21日(日)13:00～15:00

「どんぐりで遊ぼう」

どんぐりゴマ、どんぐり笛…などなど、みなさんのアイデアでいろいろなものを作ってください。

日 時：11月16日(日)13:00～15:00

「魚の標本を観察しよう」

小さな魚、大きな魚、変わった形の魚…いろいろな魚の標本を見たり触ったりして魚についての理解を深めよう。

日 時：12月20日(日)13:00～15:00

◆ 「地話懇話会」

(地学関連分野の話題を皆で気軽に話し合う)

第4水曜日/毎月

場 所：博物館 講義室

日 時：15:00からの1～2時間

対 象：友の会々員(原則)の当日来館者

参加費：無料(原則) 但し内容により有料

申込み：不要

【10月～12月の話題】

- ・10月24日(水)

『秦野の地域地学素材“戸川砥石”を探る』

話題提供者：田口公則学芸員

- ・11月28日(水)

『南からやって来た丹沢・伊豆の化石について』

話題提供者：門田真人(博物館外来研究員)

- ・12月19日(水)

『海底コアから見た過去13万年の日本海の
環境変動』

話題提供者：石浜佐栄子学芸員

状況により話題（講座内容）等の変更が有ります。
連絡先：中村（良）

◆ 植物講座「身近な樹木」

～クスノキ・ミカンの仲間をじっくり見てみよう！～

日 時：10月31日（水）10:00～15:00

場 所：博物館 3階実習実験室

対 象：大人20名（応募者多数の場合は抽選）

参加費：300円／人

持ち物：筆記用具、ルーペ、お弁当

締切り：10月10日（水）必着

連絡先：松井

特 記：参加者と植物グループが一緒になって作る
講座です。

◆ 子ども自然科学ひろば「植物おもしろ発見」

森のクラフト 木の実・葉・枝で作ってみよう

日 時：11月11日（日）13:00～15:00

場 所：博物館 3階実習実験室

対 象：小学生以下（未就学児は保護者同伴）／
オープン 24名（抽選）

参加費：100円／人

持ち物：筆記用具

締切り：10月20日（土）必着

連絡先：森谷

*詳しくはチラシをご覧ください。

◆「中央火口丘から箱根火山を俯瞰する」

箱根後期中央火口丘を代表する駒ヶ岳、神山などの山稜から箱根火山地形の全景を俯瞰し、その形成過程を探る。

日 時：11月17日（土）10:00～16:00

場 所：箱根火山（中央火口丘）周辺

講 師：蛭子貞二（友の会）、山下浩之 学芸員

集合場所・時間：[箱根園] 駒ヶ岳ロープウェイ
乗り場 10:00

解散場所：大涌谷バス停

対 象：大人のみ30名（抽選）

参加費：350円／人（資料代、傷害保険料）

注意事項：駒ヶ岳から神山、大涌谷までの登山道を
歩く距離の有るルートで、やや健脚者向けです。

締切り：11月6日（火）必着 *チラシ無し

連絡先：中村（良）

◆ 樹木観察講座④

「ナワシログミの花解剖とグミ科の樹種群」

日 時：11月18日（日）13:00～16:00

場 所：横浜市こども植物園（横浜市南区六ツ川）

集 合：こども植物園研修室 12:45～受付開始

交 通：JR保土ヶ谷駅東口からバス、児童遊園地
入り口下車、5分

講 師：八田洋章先生（樹形研究会代表）

対 象：友の会会員中学生以上 25名（抽選）

参加費：1,100円／人（謝礼、資料、保険代等）

持ち物：筆記用具、ルーペ、ピンセット

締切り：11月5日（月）必着

連絡先：深山

◆ 第103回 サロン・ド・小田原

「海底の地層から探る地球の歴史（仮）」

話題提供者：石浜佐栄子学芸員

日 時：12月1日（土）受付16:30～

場 所：県立生命の星・地球博物館

講 演：17:30～18:30（1階西側講義室）

交流会：18:40～20:00（3階レストラン・フォーレ）

参加費：講演のみの参加は無料です。

交流会参加費は、お1人1,000円

申込み：講演会は、申込み不要です。

交流会に参加される方はFAXで友の会事
務局までお申込みください。

宛て先：友の会事務局宛 FAX:0465-23-8846

問合せ：田口 tagu@nh.kanagawa-museum.jp

詳 細：友の会ブログでご案内します。

博物館友の会主催各行事の参加申し込みについて

往復はがきに必要事項を記入して、友の会事
務局までお送りください。FAXや電子メー
ルでは受け付けませんので、ご注意ください。
行事名／開催日／参加者全員の氏名・年齢（学
年）／会員番号／代表者の住所・電話番号／
指定事項、ご不明な点は、友の会事務局へお
問合せください。

注意！

- ★参加費は1名分の金額で、内訳は資料代、傷害保
険料です。それ以外のものは特記事項に記載が
あります。バスなど予約が必要な場合、参加者
個々に材料を購入する場合などの講座参加確定
後のキャンセルは、代わりの方をご紹介いただ
くか、参加費を負担していただく場合があります。
- ★オープンの行事は会員外の方も参加できます。
- ★小学生以下の参加は保護者同伴が原則です。
- ★チラシの発行されない行事もありますので、直接
〈連絡先〉へお問い合わせください。
- ★持ち物など詳細は返信はがきに記載されます。

「友の会通信」第78号は、2012年12月15日発行予定です。

発行：神奈川県立生命の星・地球博物館友の会
Vol.16, No.2, 通巻77号 2012.9.15発行
編集：友の会広報部
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499
TEL:0465-21-1515 FAX:0465-23-8846